

2016 7/12

No.2022

毎月第2・第4火曜日発行

政経 かながわ

一般社団法人
— 神奈川政経懇話会 —



湘南のリゾートプール「大磯ロングビーチ」（大磯町国府本郷）で2日、恒例のプール開きが行われた。首都圏のOLや地元
の家族連れら千人が、合図とともに「波のプール」に駆け込み、夏到来を体感した。



視点・点描	3
水素社会へ着実な歩みを	
政治	4
政治家の言葉は軽くなったか？ 戦後史を振り返り検証	
国際	6
離脱選んだ英の反乱の代償 EU、厳しい姿勢で対応	
国際	8
新たな条件下で決断迫られる 英、EU離脱問題の行方	
くらし2016	10
変わるシルバー人材センター	
企業最前線	12
地方銀行もフィンテック活用 有力ベンチャーと連携	
広告珍談	14
広告はたのしい①9 まだ、くさいな	
NNAアジア経済リポート	15

事務局だより

◇8月定例講演会

2016年8月25日(木)

午後1時30分～3時

横浜情報文化センター6階「情
文ホール」

講師は新潟産業大学経済学部
准教授の蓮池薫氏

演題は「夢と絆～拉致が奪い
去ったもの」

◇会員の動き(敬称略)

入会 ▽JTBコーポレートセー
ルス法人営業横浜支店執行役
員支店長・江田裕紀

名義変更 ▽東日本電信電話
取締役神奈川事業部長・原田
清志⇒取締役神奈川事業部長・
高橋香苗▽さがみ信用金庫理
事長・片桐晃⇒理事長・秋葉
勝彦▽ファンケル社長室室長・
臼杵ひろみ⇒執行役員社長室
室長・松本浩一

役職名変更 ▽綿屋代表取締
役・石井淳之⇒取締役・石井
淳之

退会 ▽ケイヒン取締役専務・
山川卓▽テンポアップ取締役
副会長・今野成敏

視点 点描



水素社会へ着実な歩みを

水素社会の実現に向け川崎市が取り組みを強化している。水素は、燃焼しても排出されるのは水だけ。二酸化炭素(CO₂)を出さないクリーンエネルギーの「真打」であるだけに注目している。

川崎といえば、かつては「公害の街」として知られた。それを克服する過程で積み上げられた環境技術「グリーンイノベーション」を、成長期待分野の一つとして同市は推進。

中でも力を入れているのが水素だ。

市は昨年3月、「水素社会の実現に向けた川崎水素戦略」を策定。目標は、水素エネルギーの積極的な導入と利活用による「未来型環境・産業都市」の実現という。そのため、四つのリーディングプロジェクトを臨海部で進めている。

一つ目は、千代田化工建設と連携したサプライチェーン構築モデルの実証実験。水素をトルエンと

反応させて「メチルシクロヘキサン」として輸送し貯蔵する。常温・常圧で運べるため水素供給コストを抑えることが可能という。

二つ目は、川崎マリエンで東芝と共同実証事業に取り組んでいる、世界初の自立型水素エネルギーシステム「H2One」。通常は太陽光など自然エネルギーを使って水素を製造・貯蔵し、燃料電池からマリエンの施設に電力を供給する。災害時には系統電力から自立して、300人の避難者が1週間避難生活できる電力と温水を供給する。2017年コンテナサイズで被災地への搬送も容易だ。見学者が多く、既に長崎県佐世保市のハウステンポスに設置されたほか、今年度JR南武線武蔵溝ノ口駅への導入も決まるなど注目度が高い。

三つ目は、昭和電工との使用済みプラスチックのリサイクルによ

る地域循環型水素地産地消モデルの実証実験。廃プラスチックからアンモニアを製造する過程でできた水素を、早ければ来年度から川崎区の周辺地域で使い始める。

最後は、トヨタや岩谷産業、東芝、県、横浜市と連携した「産業分野における低炭素水素活用モデル」。風力発電で電気分解した水素を簡易水素充てん車で輸送し、横浜港や川崎港の燃料電池フォークリフトで利用する実証実験で、今秋にもスタートする。「水素社会はまだ空想のように思われているが、こうした一つの試みを市民や産業界に見える形で繰り返し、実感、認識してもらうことが大切」（高橋友弘・市臨海部国際戦略本部担当課長）といい、着実な前進を期待したい。

(神奈川新聞社川崎総局長・

瀧村 誠)

まだ、くさいな

図の広告をご覧あれ。またしても臭いお話、「人糞便利掃取所」広告とある。

前号に記した京都の糞尿クルマ、つまりバキュームカーは分かるけど、掃取所とはなんだろ。コピーに

「当初は広く江湖の便利をはかり、府下人糞を高価で掃取するなり」。江湖は世間のこと。

「目的の概要をあげれば、従前府下より一定式の良法あるを見ず。しかるに当所は定式の汲取人を派出して、丁寧衛生に注意し、雨風遠隔にも厭わず、一カ月七回以上汲取りするため、従来の弊害を一変せんとする。大方の諸彦のご愛顧を賜らんことをねがう。ご用の際は郵便ハガキで御通知次第参上可仕候敬白」と、やたらむつかしい。

1カ月に、7回も汲み取るという。よほどの大家族でない、そんなに溜まらないと思うけど。

「広告主は東京神田の「人糞便利掃取所」。糞尿を汲み取り、高い値段で買いつけるという作業。買いつけたウンコやオシッコは、農家に転売したのか。それを下肥という。ウンコとオシッコの混合物。腐らせ、熟成させると肥料として

即効性があるそう。京都の臨濟宗のお寺のふいんきを表現する、《禅面》という呼称がある。

相国寺は声明づら、大徳寺は茶づら、南禅寺は武家づら、建仁寺は学問づら、妙心寺はそろばんづら。と、みごとに個性を表現している。

ならば東福寺はどんなづらか。伽藍づらという。それほど格調高い、建物が立ちならんという意味である。

そのひとつがお坊さんのトイレ

「東司」という。また百雪隠とも、百間便所ともいう。東福寺の東司は、日本最古で最大の禅僧のトイレである。

禅堂に隣接してたてられ、切妻造り（本を半開きにして、伏せたような屋根のカタチ）の長さ7間（12・7メートル）、幅4間（7・2メートル）と大きな建物。入口は北側のみ。内部は土間。まん中の通路の左右に、大きなツボが列にずらりと埋めこまれている。そこでお坊さんたちが用を足す。間仕切りはまったく無い。お坊さんたちは、とまりを気にすることなく、ゆつたりと用達したさうだ。

オシッコは「ゆばり」という。もともと「湯放」と書いたとか。東福寺の東司のクソとゆばりは、野菜の下肥として、寺の貴重な現金収入になったという。

（美術エッセイスト、茅ヶ崎市在住）

（図）明治中期、朝日新聞掲載

●人糞便利掃取所廣告

當所の廣く江湖の便利を謀り府下人糞を高価に掃取するにあり爰に目的の概要を述べ従前府下より一定式の良法あるを見ず然るに當所は定式の汲取人を派出し務て丁寧衛生に注意し風雨遠隔も厭わず一ヶ月七回以上を汲取り以て従来の弊害を一變せんとす幸に大方諸彦の御愛顧賜らんことを希ふに御用の節に郵便書まで御通知次第参上可仕候敬白

東京神田區柳原川岸十一號地

人糞便利掃取所